

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和 7 年度第 2 回愛川町町民参加推進会議協働事業審査部会 (提案型協働事業)		
事務局 (担当課)		総務部住民協働課 内線 3 2 4 3		
開催日時		令和 7 年 1 1 月 1 8 日 (火) 午前 1 0 時～午前 1 1 時 4 5 分		
開催場所		愛川町役場 2 階 2 0 1 会議室		
出席者	委 員	4 人 (別紙のとおり)		
	その他	4 人 (提案団体及び事業担当課)		
	事務局	4 人 (総務部長、住民協働課長、ほか 2 人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開	傍聴者数	0 人
非公開・一部公開の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 (1) 愛川町町民参加推進会議協働事業審査部会 (提案型協働事業) 審査の進め方について (2) 令和 8 年度実施の協働事業の応募状況について (3) 個別ヒアリング (1 事業) 4 審査結果の取りまとめ 5 講評 6 その他 7 閉会		

審 議 経 過

(1 / 9)

※審議の要旨は次のとおり

(それぞれ、○は委員、□は提案団体、■は事業担当課、△は事務局の発言)

<会議開会前に個別ヒアリングは公開と決定>

1 開 会

2 あいさつ (古賀会長)

3 議題

(1) 愛川町町民参加推進会議協働事業審査部会 (提案型協働事業) 審査の進め方について

<事務局説明>

(2) 令和8年度実施の協働事業の応募状況について

<事務局説明>

(3) 個別ヒアリング (1 事業)

① 【子育て支援「寺子屋くすくすの木事業」】 (非営利組織寺子屋くすくすの木／指導室・教育開発センター) 】

<提案団体から事業の概略・ポイント等の説明>

○ (A 委員) 本町の外国にルーツのある児童生徒の数の推移を教えてください。

また、本町の不登校の児童生徒数の推移も教えてください。

■ 外国につながりのある児童は本町で小学校6校、中学校3校合わせて199人在籍しており、推移的には、一定数増加してから持続している状況である。また、不登校児童生徒数の推移に関して、詳細のデータは本日持ち合わせていないが、現状

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(2 / 9)

増えてきている状況である。

○（Ｂ委員） 団体からの説明の中で、不登校の児童生徒が５名在籍しているとのことであるが、ネットで学習をすることで、学校の出席扱いとして認められる制度が存在していることは知っているか。

■ 承知しております。また、神奈川県からは、メタバースを活用した不登校児童生徒の支援があることを、各小中学校に周知しており、現在本町でも相談指導教室の「絆」で、メタバースを活用する研究を実施しているところである。町全体で実施するとなるともう少し時間が必要である。

○（Ｃ委員） 現在、受け入れを行っている児童生徒が２１人いるとのことであるが、団体として受け入れ可能な人数はどれくらいなのか。

□ 現在、貸し教室として春日台センター２階の寺子屋と春日台会館１階の一室を利用して事業を行っているが、定員的に厳しくなってきたため、来年度は、春日台会館内のより広い部屋を借りることで、２５名くらいまでは対応できると考えている。

○（Ｃ委員） 現在の受け入れ人数の定員としては、２５名くらいが限界ということか。

□ はい。場所的に２５名が限界であるが、不登校の児童生徒の中には、教室まで来れない子もいる。

○（Ｃ委員） 児童生徒の送迎を行っているとのことであるが、その可能範囲としては中津地区のみなのか。

審 議 経 過

(3 / 9)

□ 希望状況によってであるが、町内全地域が対象である。

○（C委員） 半原や田代方面にも外国籍の方がいると思うが、そうした子どもたちの送迎はやっていないか。

□ 現在、希望がない状況であり、団体で作成・配布している活動報告等の会報「かわら版」の活用や学校を回るなど活動の周知は行っているが、なかなか希望者が来ない状況である。また、愛川中学校の学区では、児童生徒の親が直接送迎を行っている家庭もあり、需要がない。

○（C委員） 支援の対象となる児童生徒数に対し、本事業の利用者が少ないと思うが、利用しない理由を聞いたことはあるのか。

■ 利用しない理由についての聴取はしていないが、町内には国際教室という日本語指導教室があるため、全ての子どもが日本語の初期指導が必要というわけではない。日本語の指導のみを希望する子どももいれば、本団体のようなところで、色々な可能性を伸ばしたい、他の児童生徒と関わりたいという子どもは進んで通っている状況である。

○（B委員） 昨年あいかわ町民活動応援事業として活動していた不登校児童生徒の親御さんを対象としたピアカウンセリング事業を行っている団体と連携し、当事者の親を繋げるような活動は行っているのか。

□ その団体とは、団体立ち上げの頃から知っており、状況等の把握はできている。

○（A委員） 令和7年度より厚木市でもプレスクール、プレクラスが始まったようであり、こういう支援は学校が主体となって、外国にルーツを持つ児童生徒の受入

審 議 経 過

(4 / 9)

れを行うイメージを持っているが、今後本団体への事業委託も含め、町事業として実施していくような考えは、教育委員会でも持っているのか。

■ プレスクール・プレクラスともに現在も協働事業で実施してもらっている。教育委員会としては現在、町内小中学校全校に日本語指導協力者を派遣し、対象児童生徒一人につき40時間の枠を設け、日本語初期集中指導や日本の文化へ慣れてもらう指導を行っており、今後は、学校内に設置されている校内支援センターでの支援を行っていくことを展望としている。しかし、まだ構想段階であり、予算の確保なども含め形にはできていない状況である。

○（A委員） 検討されているということですね。

■ はい。

□ 他市の話で自治体の規模の違いはあるが、急激に外国にルーツを持つ子どもたちが増えた中、単年で数百万円の予算化ができたという事例がある話を聞いた。愛川町でも、現在、特定の国籍の子どもたちが増えているため、いつ同じような現象が起きてもおかしくないため、即急に形にしてもらいたい。

○（A委員） 既に町内小学校でも来年度の入学生で外国籍の子どもが多いということであるため、教育委員会からも強く働きかけて欲しい。

○（B委員） 担当課に聞きたいが、この本団体の活動を永続的に大きく、より良くしていくために、どんな目標を持っていたり、あるいは他団体等から学ぶことや見学をして、目標設定などしているのか。

■ ここで協働事業として継続ができる最終年を迎えるため、委託事業にしたいとい

審 議 経 過

(5 / 9)

う担当課の思いがあり、現在、団体には既に先進的な内容で取り組んでくれている。

また、県や他の団体と関わることにより、事業内容をブラッシュアップしてもらい、

担当課ではその活動を応援しながら一緒にやっていくスタンスである。

○（A委員） 小学校2年生までの児童生徒を支援対象として、活動している本団体の他に、姉妹団体として、小学校3年生以上を支援対象として活動している「小さな森の学校」があるが、団体を分けている理由は何かあるのか。

□ 「小さな森の学校」は月2回土曜に活動しており、支援対象である小学校3年から中学3年までであれば、いつでも入ることができる。本団体を立ち上げた理由として、「小さな森の学校」の1団体だけでは、人数が増えてきた際、賄いきれないからであり、本団体を立ち上げたことで、不登校児童生徒に関しては、中学校卒業年度まで支援ができ、プレクラスや小学校1、2年生も含めて支援を行い、その後、小学校3年生からは、「小さな森の学校」へと繋げている。既に団体間でワークショップや運動、先生方やスタッフの研修会も一緒に行っている。中には両団体に通っている子どももいて、「寺子屋くすくすの木」で月3回の活動・「小さな森の学校」で月2回の活動と全ての支援を受けられることで、上達具合が違ってくると考えている。

○（B委員） 提案資料の「その他」の中に農作業や米作りをしているとのことで、その活動は大賛成であり、土に触れることは子どもの精神にも良いと考えており、今後も継続して欲しい。

○（C委員） 「小さな森の学校」と「寺子屋くすくすの木」に所属しているスタッ

審 議 経 過

(6 / 9)

フは同じなのか。

☐ いいえ、違います。

○（Ｃ委員） 全く違うのか。

☐ 団体の役員は一緒であるが、それ以外のスタッフは半数以上違う。活動を継続したいが、親の介護などでスタッフが減っており、入れ替わりはあるが、継続して活動しているスタッフもいる。

○（Ｃ委員） ではスタッフは違うということですね。

☐ はい。

○（Ｃ委員） 活動予算を確認したところ、昨年度と比べて支出が増加しており、貸し教室の使用料の値上がりが、理由であるとのことだが、来年度から確実に値上がりされる決定事項なのか。

☐ 既に令和４年度から値上がりはしていたが、特別措置をいただき少し安く利用させてもらっていたものの、昨今の状況により、料金の値上げをしてもよいかとの話があり、来年度から予算に組み入れた。既に今年度も途中から値上がりがされているため、年度内の分については、調整を行い対応している。

○（会長） 協働事業として２年間、行政との連携を図りながら事業を行っているが、一緒に組んで事業を実施しての一番の大きなメリットは何か。

☐ 一番は守秘義務の面で、住民団体のみでは入ることが難しく、デリケートな問題で苦しんでいる家庭に対して、行政と一緒に組むことで、そうした部分は行政にお願いし、情報共有しながら行うことで、迅速な対応ができる。

審 議 経 過

(7 / 9)

○（会長） 行政としてはどのように考えているか。

■ 行政のみでは難しいきめ細やかな支援を行ってもらっていることと、新しい視点から意見をいただけることで、一緒に実施しているのメリットを感じる。

○（会長） その中で、本年度の事業に活かされていることはあるか。

■ 一番は事業の周知の面で、町内小中学校の先生たちへの周知が進んだと考えており、昨年度までは、そこまで周知が進んでおらず、先生から支援を頼まれる機会がなかったが、今年度は先生からも、本団体での支援を受けた方がもっと学べるのではないかという声が出てくるなど周知が進んできたと考えている。

4 審査結果の取りまとめ

<事務局説明及び各委員審査結果の取りまとめ>

5 講 評

○（A委員）

- ・ 団体の専門性が活かされていて、以前から他団体での活動実績もあり、きめ細やかなで効率的、効果的なサービス提供を目指されており、協働事業に適している事業だと評価している。
- ・ 一般的な団体の活動に関しては、始めるより安定して継続する方が難しいものであり、今後とも後継者の育成や人材の確保にも注力してもらいたい。
- ・ 外国にルーツを持つ児童生徒及び不登校児童生徒の支援は他にも関係団体が存在するため、密な連携や情報の共有が本事業実施におけるポイントだと感じている。

審 議 経 過

(8 / 9)

○（B委員）

- ・ 愛川町の総合計画内の施策が事業内容に盛り込まれており、協働事業として適している。
- ・ 今後5年先程度の将来計画を協働担当課と相談しながら実施していけるとよいのではないかと思います。
- ・ 先進的な取り組みを行っている団体等の活動を参考にしながら、今後実施していけるとより良い活動ができると思う。
- ・ 愛川町には多くの団体があるため、他団体との繋がりも持ってもらえると良いのではないかと思います。

○（C委員）

- ・ この事業は学校教育では補えないような事業で有益な事業であると考えている。町民活動応援事業での活動からの実績もあり、目的や実施計画も明確になっており、団体の方々の実行力や熱意も十分に感じられ、有用な事業である。
- ・ 不登校の児童生徒及び外国にルーツを持つ児童生徒は、今後も増える傾向で良いと考えられるため、提案型協働事業の終了後も継続していただいたい。

○（会長）

- ・ プレスクールを辞めて他の事業に変えるなど、事業の精査を実施できていることは、今後の団体活動の自立に向けても良いことであり、できる範囲で事業の継続が途切れないようにしていただいたい。
- ・ 行政との事業のすみ分けに関して、これから自立をすることになれば、より重要

審 議 経 過

(9 / 9)

になってくると考えており、連携を図っていった欲しい。

- ・ 活動場所は行政が用意し、運営は団体に任せるような行政と民間の新しい連携方式が生まれてくると嬉しい。
- ・ 提案型協働事業での2年間で色々な活動をしてきたと思うので、この3年目で事業の精査を行えると良いと思う。
- ・ 組織強化のために多様な人材の確保が必要ではないかと考えており、近隣には多様な学生を抱える大学が存在しているため、インターンシップ等を通じた連携を図っていった方が良いのではないかとと思う。
- ・ 情報機器を活用した事業展開も手段として有益である。

6 その他

＜事務局から事務連絡：会議録の確認方法、報酬の支払い、今年度実施の町民活動応援事業の取り組み状況報告について＞

7 閉会

会長(委員長)
署名欄

古賀 淳

愛川町町民参加推進会議協働事業審査部会委員名簿

令和7年11月18日現在

氏 名	選出区分	役 職	出 欠
熊坂 良介	公募による町民		欠 席
小林 文雄	公益活動に実績のある者		出 席
小野澤 悟	町の各種施策に知見を有する者		出 席
翁長 陽子		副会長	出 席
古 賀 学	専門委員	会 長	出 席

任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日